

# 第二期中期目標期間における業務実績報告書

平成30年6月

全体的な状況

は、次代の科学系・技術系人材の育成及び地域社会の発展に寄与するための名古屋市科学館との連携に関する覚書（サイエンスパートナーシップ）を締結し、さらに、これまで様々な分野で連携・協力を行ってきた名古屋市瑞穂区役所及び名古屋市緑区役所と、それぞれ平成 28 年 6 月、平成 29 年 3 月に連携協力協定を締結するなど、名古屋市との更なる連携を推進した。

- 3 . 市民公開講座について、新たな受講者層を開拓するため、平成 27 年度から「大学発！ハッピー子育て講座」を実施した。子どもを同伴しての受講を可能とするなど、子育て世代をターゲットとして運営面においても工夫を行っている。



認定の期間は2017（平成29）年4月1日から、2024（平成36）年3月31日までとする。

（2）指摘事項

【改善勧告】

・薬学部において、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.23、同薬学科が1.21、同生命薬科学科が1.26と高い。Kぞ1、同生夢科学部宜い間1真)俔傳P Ô[nlq ô M`È••»5Đ4x w  
( 仄 縈^ 33倅場跣鈔傳酷囁ね同謝・薬学八醜傳鏹b み 科ら ü .2733倅場跣鈔傳酷囁 a 鄰 焉9

【評価委員会からの意見・指摘事項】



経済学研究科において、平成 28 年度より名古屋工業大学とともに名古屋の製造業を支える経営者の養成を目的とした、社会人向けの「工場長塾・経営中核人材育成プログラム」を共催し、平成 29 年度は 30 名を超える受講者を輩出するなど、実務を意識した教育を進めることができた。





(5) 社会福祉士国家試験の在学中合格者数

---

目標	《参考》現状値（平成 23 年度）	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
----	-------------------	----------	----------	----------	----------	----------	----------

第二期中期目標

第二期中期計画

計画の実施状況

イ 教養教育では社会の一員として

(1) 第一期中期計画期間に導入したGPA(単位当たりの成績評価制度)を学生に対する個別の学修指導に活用することにより教育の質を確保する。<9>

24年度	25年度~
検討	実施

29  
[7] ・GPA を効果的に活用し留年・退学防止につなげるために、平成 26 年度後期より各部局において GPA を活用した個別学修指導の実施を開始し、継続している。







(1) 共同大学院を設置するなど、学内外での大学院連携を充実する。<22>

24年度	25年度~
検討	実施

- 29
- ・平成 25 年度に薬学研究科において、名古屋工業大学との共同大学院ナノメディシン科学専攻を設置した。
- [19]
- ・経済学研究科において、平成 28 年度に医学研究科、薬学研究科と連携し、「医療経済マネジメントコース」を設置した。
- [20]
- ・平成 29 年度に医学研究科において、芸術工学研究科と連携した臨床医療デザイン学分野を設置し、人間文化研究科において乖 \*\* 獯 鵠 鈿 た 臨





	<p>官学分野の指導者及び芸術工学分野の研究者を育成する。&lt;30&gt;</p>			<p>学が理念とする分野横断的な多面的視点と、それに基づく統括力が必要とされる設計事務所や公務員など高度な専門的職業人として各分野で指導的な役割を果たしていることが確認できた。</p>	
	<p>(ウ) 看護学研究科では、高度実践力の質的担保を図る教育の実施などにより、高い専門性を有する看護職者を育成するほか、看護教育者・看護研究者の積極的育成をめざす。また、特定看護師（仮称）をめぐる社会的状況等に対応しながら専門看護師教育コースを充実させる。&lt;31&gt;</p>	<p>24年度~</p>	<p>29</p>	<p>・高度実践看護師の育成を目指して、平成 24 年度に精神看護専門看護師教育コースを開設した。同コースの入学生は、第二期中期計画期間中で計 7 名となった。平成 29 年度までに 5 名が修了しており、第二期中期計画期間中に認定された精神看護専門看護師は 3 名である</p>	
		<p>実施</p>	<p>[32]</p>	<p>・一方、平成 19 年度に開設されたクリティカルケア看護専門看護師コースは、教育課程更新を機に高度実践看護師教育課程( 専門看護師 38 単位 ) の審査を受けて平成 29 年 3 月に承認され、平成 29 年度入学生 2 名に対修了し名である開接 尺鉢さ9暁</p>	
			<p>[33]</p>		

ニーズなど時代や社会の要請に対応した大学全体の学部・学科等の再編・見直しを進め、教育実施体制を充実・強化する。こうした枠組みの中で、人文社会学部及び芸術工学部の学科再編を行うほか、大学院システム自然科学研究科及び自然科学研究教育センターの充実・強化について、その方策を検討し、方向性を決定する。<35>

実施

については、第三期中期目標期間中に全てを実施するという内容で中期計画に位置付けることができた。

・人文社会学部は平成 25 年に改組し一部学科名称を変更すると同時



			<p>ユール、学生会館南側のソテツ広場の整備を実現した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学独自の給付型奨学金の創設について検討し、「名市大生スタート支援奨学金」を平成 30 年度から支給できるよう制度設計を行った。</li> </ul>	
--	--	--	--	--

(4) 障がい学生をサポートする制度の導入など、障がい学生に対する学習支援に総合的に取り組む。<44>

24年度

第2 研究に関する項目

自己評価

年度評価結果



第二期中期目標

第二期中期計画

計画の実施状況

評価委員会からの



				考えよう 20 年後の老後」を開催し約 300 名の参加を得るなど、大きな成果が見られた。
--	--	--	--	---

(5) 人間文化研究科では、人文社会諸科学の基礎的、先進的研究を進めるとともに、生涯発達・次世代育成の支援、協働社会・まちづくり、











(3) 教育委員会との協働により、大学の教育研究に触れる機会の提供など、高校生の学習意欲の向上につながる高大連携事業を実施する。<62>

24年度 25年度-





2 国際感覚豊かな人材を育成する			創設などにより、留学生や外国人研究者の受入支援を行った。	
------------------	--	--	------------------------------	--

第5 附属病院に関する項目

自己評価

年度評価結果



【評価委員会からの指摘への対応状況】





する。

・平成 29 年度より高度先進医療を安全に提供し、優れた医師の確保







第二期中期目標	第二期中期計画	計画の実施状況 達成	評価委員会からの 実績・成果に関する質問等
---------	---------	---------------	--------------------------



財務内容の改善に関する項目

---

自己評価

年度評価結果

【数値目標の状況】

(1) 純資産比率(純資産/負債純資産合計)

目標

《参考》現状値(平成 23 年度)



理がなされている。

トの「財務」のページをより分かりやすくリニ

ー知文はすべて移動し、ウェブで教職員が閲覧

研究費についてはe-ラーニングを活用し、研究

場所を選ばず、各自で学べる環境も整えた結

が徹底されている。

2 業務の見直しを推進し、経費の抑制を図る。

4 各種業務委託や機器の借り上げ等について見直しを行い、質を低下させることなく経費の抑制を図り、とりわけ、一般管理費についてはその比率の伸びを抑制する。<94>

24年度~  
実施











1 名古屋市立大学環境憲章の基本  
理念に沿って、環境負荷の低減と



